

水道工事特記仕様書

1) 共通仕様書について

受注者は岐阜県建設工事共通仕様書に基づき施工すること。ただし、岐阜県建設工事共通仕様書に定めのない事項など、水道工事標準仕様書（日本水道協会）に基づくことが適当な場合は水道工事標準仕様書に基づき施工すること。

2) 施工管理について

岐阜県建設工事共通仕様書に定めのない水道工事の施工管理については、水道工事標準仕様書（日本水道協会）に基づき実施すること。

3) 防食・防錆について

- 1 鋳鉄管を切断する場合は、切り口にダクタイル鋳鉄管用合成樹脂塗料や防食キャップなどの防食措置を講ずること。また、穿孔する場合も、必ず穿孔口に防食コア（リング）を設置すること。
- 2 使用する防食・防錆塗料は主要資材一覧に明記し、塗布状況と塗料材が判別できるよう写真撮影をすること。

4) 通水について

通水前に出来形管割図及び継手チェックシート並びに配管写真を監督員に提出し、配管確認を受けてから通水をおこなうものとする。また、通水作業及び水圧試験の加圧開始は、配管後、下記の時間を経過していなければならない。

管種	通水	加圧
鋳鉄管（切管用塗装）	外気温 10℃ 30 分 20℃ 15 分 30℃ 15 分	一昼夜
鋳鉄管（内面補修塗料）	外気温 10℃ 16 時間 20℃ 8 時間 30℃ 6 時間	一昼夜
水道配水用ポリエチレン管	φ 100 以下 30 分 φ 150 以上 1 時間	一昼夜
塩ビ管（TS 継手）	1 時間	24 時間

注 1) 通水は、0.5m/sec 以下の流速でおこなうこと。

注 2) 接着剤に乾燥時間などが指定してある場合は、それに従うこと。

5) 水圧試験について

水圧試験は、管内の空気排除のため通水して 24 時間経過してから下記のとおり実施する。

管種及び設計水圧に応じた試験圧

管種	試験方法	規格値
铸铁管（県水道共通仕様書）	設計水圧を 24 時間	8 割以上を安定して保持していること
水道用ポリエチレン管（給水用ポリエチレンパイプ協会）	0.75MPa を 24 時間	水圧低下率が 20%以下
水道配水用ポリエチレン管（ポリテック）	0.75MPa を 5 分間放置し再度 0.75MPa に上昇させ、0.50MPa に減圧し、24 時間	0.40MPa 以上
ステンレス鋼鋼管埋設用管継手（ステンレス協会）	1.75MPa を 2 分間	低下しないこと

注）複数の管種からなる場合は、極力、管種毎に検査を実施する。ただし、管種毎の検査が困難な場合は、水道用ポリエチレン管の試験方法にて実施すること。

6) 段階確認・施工状況立会いについて

岐阜県建設工事共通仕様書に定めのない段階確認及び施工状況立会いについては、下記のとおりとする。ただし、施工状況立会いについては、監督員から指示があった場合に実施する。

段階確認

種別	細別	施工時期	確認項目	確認頻度
水道	開削	敷き砂	高さ	路線、口径、管種毎 400m につき 1 箇所※ 枝管 40m 以下は不要
		砂埋戻し	管上厚さ	
	管路	占用位置	土被り	
			铸铁管ゴム輪位置の確認	口径、継手種類毎 200m につき 1 箇所※枝管 40m 以下は不要
		溶接部 X 線		X 線検査箇所全て
		管防護工	配筋間隔、鉄筋径、幅、高さ※打設前	2 箇所につき 1 箇所

施工状況立会い

種別	細別	施工時期
水道	管路	接合時（チェックシート活用の確認）
		防食・防錆剤の塗布時
		ボルト締めトルク

7) 管一体化長さについて

GXφ300以下の設計水圧（静水圧+水撃圧）1.3MPa以下で土被り0.6m以上又はGXφ400の設計水圧1.3MPa以下で土被り1.2m以上の場合の管一体化長さは、ダクタイル鉄管協会の早見表を用いるものとし、早見表を適用できない条件の管一体化長さは、計算式で算出する。

したがって、管割を変更する必要がある場合は、監督員に協議し、管一体化長さを確認すること。

8) 休止中の直結止水栓について

休止中の水道メーターに直結止水栓を取付ける時は副栓を閉めること。

9) 完成図書について

①完成図書は次のとおり提出すること。

- ・完成届、完成写真、出来形管理図表、品質管理図表、施設管理台帳（配管平面図、管割図、配管オフセット図）、再生資源利用実施書（搬入・搬出）、マニフェストの集計-廃様1

②管布設工事における出来形管理及び品質管理には、次のものを追加すること。

- ・出来形管理
 - 土被り、敷砂高さ、砂埋戻し管上厚さ、埋設シート高さ、占用位置
- ・品質管理
 - トルク確認、継手チェックシート、水圧検査記録紙